



学校だより
ながや

令和2年度 第7号
令和2年 10月5日
横浜市立永谷小学校
校長 平野 好子

子どもの笑顔のために

校長 平野 好子

夏が過ぎ、涼しい季節となりました。また、前期が終わり、後期が始まる10月となりました。

今年度は、感染症拡大防止を常に考えながらの新生活様式でのスタートとなりました。密を避けて生活することが新しい生活様式なのだと言われた当初は、生活様式としての定着への焦りがありました。しかし、自分の命や大切な人の命を守るために、子どもたちに、何としてもこの新生活様式を身に付けさせなければならないという思いで、これまで、教職員とともに懸命に学校教育活動に取り組んでまいりました。今では、「マスク着用」、「手洗い」「3密を避けることを意識する」が『新』がつかない当たり前の生活様式になっています。

さて、そうはいっても、昨年度と比較すると、できないことがあることは事実です。修学旅行や宿泊体験学習、スポーツフェスティバルやその他の校外学習等についても、感染症拡大防止を踏まえ検討を重ねてきた結果、中止あるいは実施の方法の変更をせざるを得ないことについては、ご理解いただきたいと思えます。

しかし、今このときは一度きりしかなく、大切にしなければなりません。学校は、今できることを子どもたちとともに考え、ひとりひとりが輝く場、安心できる場をつくっていききたいと考えています。

作家の村上春樹さんが自身の著書の中で、勉強と知識の違いについて、書かれていました。知識は、テストや仕事ですぐに役立つ即効性の類と、時間が経っても消えずに心に残り続け、人生を豊かにしてくれる非即効性のものがあると。

即効性と非即効性の違いは、たとえて言うなら、小さいやかんと大きなやかんの違いです。小さなやかんはすぐにお湯が沸くので便利ですが、すぐに冷めてしまいます。一方大きなやかんはお湯が沸くまでに時間がかかるけれど、いったん沸いたお湯はなかなか冷めません。どちらがより優れているというのではなく、それぞれに用途と持ち味があるということです。上手に使い分けていくことが大事になります。

～村上春樹 著「職業としての小説家」より

学校は学びの場です。生活に使える計算や文字の読み書きなど即効性のある知識もあれば、もっと知りたいと自ら調べ、結果として積み重ねられていく即効性がないかもしれない知識もあります。後者の知識が真価を発揮するまでには長い時間がかかることもありますが、前者と同様に生きる力となります。どちらも大切にしていきたいと考えています。

今後も「3つの密を避ける」、「マスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など拡大予防の徹底を図りながら学校教育活動を行っていきます。

ご不安・ご心配な点多々あるとは存じますが、保護者の皆様、地域の皆様のご支援・ご協力を今後ともよろしくお願いいたします。